



SHOKEI-KAN しょうけい館

戦傷病者史料館

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

しょうけい館は、戦傷病者とご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を集集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設です。

和歌山展

義肢に血が通うまで

入場無料

平成27年

11.4(水) — 11.8(日)

午前9時～午後5時

[会場] 和歌山県民文化会館 小展示室

[主催] しょうけい館(厚生労働省委託)

- 義肢に血が通うまで ～戦傷病者の社会復帰と労苦～
義肢の歴史と身体の一部を失った戦傷病者の労苦を、戦中・戦後に調製された義肢など実物資料と共に紹介します。
- 証言映像コーナー
しょうけい館が収録した戦傷病者とそのご家族の証言映像を上映します。
- 寄贈資料コーナー
和歌山県各地の戦傷病者とそのご家族、和歌山県傷痍軍人連合会から寄贈された資料を展示します。



和歌山市在住の方より寄贈された傷痍軍人記章



海南省在住の方より寄贈された御賜の義手



しょうけい館

戦傷病者史料館

和歌山展

義肢に血が通うまで

しょうけい館では毎年春夏2回の企画展を開催しています。戦傷病者の労苦への理解を深めるための企画展を各地の皆様にもご覧頂きたく、この度は平成26年夏に開催した「義肢に血が通うまで」を、展示品を一新して、特別展示します。

恩賞制度の一環として、戦傷病者に対して各種の人工補装具が支給されてきました。明治10(1877)年の西南戦争で、オランダ製の義肢を支給したことが始まりです。

明治27~28(1894~95)年の日清戦争では、昭憲皇后の「敵味方の区別なく人工手足を」との御沙汰があり、以来「御賜の義肢」として制度化されました。明治37~38(1904~05)年の日露戦争後、廃兵院や失明軍人のための盲学校などが設立され、社会復帰の施策が拡充されます。

義手については、昭和期には、それまでの審美的な「装飾用」に加えて、実用的な「作業用」の開発と職業訓練が本格化します。日常生活、各種の職業、用途別に作業用義手が製作され、各人の適正と義手の特性を踏まえて様々な職業を選択できるようになりました。

当展示では、義手、義足、義指、義眼といった「義肢」を写真や実物資料を交えて紹介し、これらを着装して社会復帰を果たし、第二の人生を歩まれた戦傷病者の労苦を偲びます。

●義肢に血が通うまで ~戦傷病者の社会復帰と労苦~

義肢の歴史と身体の一部を失った戦傷病者の労苦を、戦中・戦後に調製された義肢など実物資料と共に紹介します。

●証言映像コーナー

しょうけい館が収録した戦傷病者とそのご家族の証言映像を上映します。

映像タイトル	証言者	受傷部位	受傷地
片手のハンディを乗り越えて	山本 光夫	右上膊切断 腹部擦過銃創	和歌山県由良港
両眼失明が切りひらいた戦後の人生	川人 義明	両眼・右肩・左胸爆弾弾片創 両眼失明	広島県呉 音戸の沖
傷痍軍人の妻として	大神つや子 長谷川はつ子	—	—

●寄贈資料コーナー

和歌山県各地の戦傷病者とそのご家族、和歌山県傷痍軍人連合会から寄贈された資料を展示します。

病床日誌(和歌山市)、回想記(日高郡)、解散式集合写真(和歌山県傷痍軍人連合会)等



西牟婁郡の方より寄贈された千人針(腹巻)



日高郡の方より寄贈された日本赤十字社救護看護婦制帽

会場

和歌山県民文化会館 小展示室(和歌山県和歌山市小松原通り1-1)

交通アクセス

●南海電鉄「和歌山市駅」より

徒歩約20分 タクシー約5分
バス約10分(9・10番のりば)
県庁前下車 会館まで徒歩約4分

●JR「和歌山駅」より

徒歩約35分 タクシー約10分
バス約10分(2番のりば)
県庁前下車 会館まで徒歩約4分

合同開催

平和祈念展示資料館 特別展示「シベリア抑留を描く 田中武一郎絵画展」

シベリア抑留体験者である田中武一郎氏が、収容所での労苦体験をもとに描いた絵画を紹介します。

主催：平和祈念展示資料館(総務省委託)
会期：11月4日(水)~11月8日(日)
会場：和歌山県民文化会館 小展示室

同時開催

昭和館 巡回特別企画展「もっと知りたい! 戦中・戦後の暮らし」

昭和館が所蔵する実物資料を中心に、戦中・戦後の国民生活上の労苦に係わる歴史的資料を展示します。

主催：昭和館(厚生労働省委託)
会期：10月31日(土)~11月8日(日)
会場：和歌山県民文化会館 大展示室・中展示室

